



## オーバーツーリズムって？

### ◆観光客増加の悪影響／騒音・ごみ問題の弊害深刻

Q－「オーバーツーリズム」って最近よく聞くけど、どういう意味なの。

A－「オーバーツーリズム」は「観光公害」ともいわれ、観光客の増加によって地域の人々の生活や自然環境に悪影響を及ぼすことです。観光客が増えることは非常にありがたいことですが、騒音やごみ問題、環境破壊などが引き起こされ、住民とのトラブルにつながる恐れもあります。オーバーツーリズムがもたらす弊害が深刻になり、かえって観光客が離れていく可能性もあります。近年では、オーバーツーリズムに陥らないよう、日常生活と観光を高度に両立させる多くの取り組みがなされています。

Q－具体的にどんな対策が行われているの。

A－観光庁は2023年10月に「オーバーツーリズムの未然防止・抑制に向けた対策パッケージ」を打ち出しました。インフラ関連では、観光客が集中する路線バスから鉄道への分散・乗り換えの促進・支援（京都など）、「手ぶら観光」の実証導入（京都）、運賃支払いのキャッシュレス・多言語化、鉄道輸送力の向上、歩行空間の拡大などがあります。ほかにも、観光需要の分散・平準化に向けた施策として、観光スポットや周辺エリアの混雑状況の可視化支援（北海道美瑛町、鎌倉市など）、混雑状況を考慮した観光ルートなどの提案誘導（箱根・秩父エリア）があります。また地方への誘客や分散推進政策として全国11地域を支援しています。この中には「霊峰白山の恵みが育んだ多様な文化がある『北陸エリア』」も選ばれています。

#### 観光公害対策のポイント

- 混雑時に鉄道運賃を引き上げる制度を行楽期や客の多い曜日・時間帯に準用
- 駅と観光地を結ぶ急行バスを導入しやすくするため、運賃設定を届け出制に
- 外国人宿泊が三大都市圏に偏っており、地方誘客を一層推進
- 地域事情に合わせて対策に取り組む先駆モデルに全国約20地域を今後選定

Q－北陸でのオーバーツーリズム対策はどうなっているの。

A－地域の自主的な対策としては、19年4月に導入した金沢市の「宿泊税」が挙げられます。宿泊税は、まちの個性に磨きをかける歴史・伝統・文化の振興や、観光客の受け入れ環境の整備、市民生活と調和した持続可能な観光振興などに活用されています。観光客や観光事業者からのアンケートを見る限り、おおむね好意的に受け入れられているようです。

Q－富山県への影響は。

A－北陸新幹線の敦賀開業が3月に迫り、京都を経由したインバウンド（訪日客）の流入など金沢以外でもオーバーツーリズムが起る可能性が指摘されています。観光で地域がにぎわうのは良いことですが、県内でも対策が必要になってくるかもしれません。

（この連載は北陸経済研究所の藤沢和弘が担当しました）